



創立1880年

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6階 Tel 03-6302-1960 URL http://tokyo.ymca.or.jp 発行所 公益財団法人 東京YMCA 発行人 菅谷 淳

# 東京YMCA 11

2022

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

# SDGsを自分ごと化する

## 小学生で単身中国へ

「社会の境界線を溶かすこと」、これが私の人生のパーパス(目的)です。まずは、どのようにこのパーパスに至ったのか、というお話をさせていただきます。

私は、母と娘のひとり親家庭に育ちました。母と事実婚の関係にあり、血のつながらない父もおり、私たち家族は幸せでした。一方で、周囲からは「普通ではない」と見られることが多く、保育園から小学校までいじめを経験しました。

## 過去は変えられない

中国では、言語や価値観の違いなど、いくつもの壁にぶつかりました。中でも、歴史の壁は厚く、途方に暮れていたとき、「過去は変えられないけど、あなたが目の前にいる人とうまく関わるか、今、この場から変えられる。未来はあなたたち次第」と声を掛けてくれた先生がいました。自分も誰かにこんなメッセージ

を発信する大人になりました。その後は、「いろいろな国や文化が交じり合う国」としてカナダに興味を持ち、留学しました。カナダで受けた教育は、私のパーパスの起点となります。私が通った学校には、生徒一人ひとりが、自分の夢と、そこに至るために何が必要かを具体的に考え、分かち合う「ライフ・プランニング」という授業がありました。作家になりたい、カフェ経営をしたいなど、皆が明確なビジョンを語る中で、進学を当然のこととしながら、大学で何を学びたいかを語れない自分を虚しく感じました。「ああそうか。やりたいことあつての進路の壁にぶつかりました。中でも、歴史の壁は厚く、途方に暮れていたとき、「過去は変えられないけど、あなたが目の前にいる人とうまく関わるか、今、この場から変えられる。未来はあなたたち次第」と声を掛けてくれた先生がいました。自分も誰かにこんなメッセージ

## 私のパーパス

以降も色々な縁が重なって、メキシコ、スペインへ留学し、世界中の学校に通うことになりました。その間さまざまな困難に直面しましたが、感情という共通言語を持つ「人として」相手と向き合うことで、人は打ち解け合うことができることを身を持って学びました。こうした経験を境にして、「国籍」「人種」「宗教」「性別」など、社会にくつも存在する境界線を溶かして、誰もが自分の軸を自由に探究できる地球社会を築きたい、というマイ・パーパスに至りました。

## 講師 平原 依文さん



HI合同会社代表。青年版ダボス会議日本代表。「社会の境界線を溶かすこと」を使命として、「SDGs×教育」を軸に持続可能な社会のあり方やビジネスモデルを追求する。

「自分ごと化」が鍵 昨今国連が定める「持続可能な開発目標(SDGs)」に関心が高まっています。国連サミットで全会一致で採択されたSDGsは、2030年までに達成すべき国際社



## 国連が定める「持続可能な開発目標 (SDGs)」

SDGsは、2015年9月に開催された国連サミットで加盟国の全会一致で採択された。世界を「持続可能」に変えるための「17の目標」と「169のターゲット(具体目標)」で構成され、貧困・教育・健康・福祉・平和・ジェンダー・エネルギー・気候変動など、今日の世界が抱える課題を包括的に挙げている。このため、達成年度の2030年に向けて、国や政府だけでなく、個人・団体・企業・教育機関など、あらゆるセクターが一丸となってアクションを起こし、それぞれの役割を果たすことが求められている。

\*17の目標と169のターゲットは、外務省のウェブサイト「Japan SDGs Action Platform」で全文確認できる



## 異彩を放つ人たち

福祉とアートを起点として、SDGsに取り組む人たちがいます。「へ

(2面に続く)



「4つの品物は何からできている?」。ワークショップで出題されたクイズより(答えは2面)

## 赤三角

「高尾の森わくわくピレージ」の委託契約がスタートして18年の歳月が経とうとしています。契約更新時期も2年後に迫り、運営を担うグループ会社間では改めてアピールすべきことは何か検討が始まりました。▼利用者のご家族や学校へのアンケートには「初めての体験」をサポートしたことへの感謝の言葉が度々記されます。野外体験初心者にとっても、使いやす

が、私たちの強みです▼私が主にキャンプに携わっていた当時は、「一体自分は何のプロなのか」と、野外活動のスキルが足りないことに引け目を感じていました。しかし今は、世の中の動きを的確にとらえ、これに呼応して「新しい入口」を作るプロにこそなる必要があると考えるようになりました。YMCAがこれまでにキャンプを推進し、英語教育を広めてきたように、新しい「何か」を求める人たちが、スムーズにその一歩を踏み出すことのためのサポートに、力を注いでいきたいものです。▼わくわくピレージの新規契約の開始は、2025年4月。どんな新しい入口が用意できるのか、楽しみでもあり、責任も重大です。(高尾の森わくわくピレージ 館長 菅野 牧夫)

